

令和5年度事業報告

《総括的概要》

令和5年度の我が国経済は、5月に新型コロナウイルスが5類へ移行して行動制限が解除されて以降、インバウンドの増加なども相まって社会経済活動の正常化が進んだ。横浜においても、国際クルーズ船の本格的な運航再開や各種イベントの開催により国内外から交流人口が増加し、賑わいを取り戻した。一方、ロシアのウクライナ侵攻が長期化し、10月にはイスラエルとハマスの戦闘が勃発するなど国際情勢が不安定化する中、日米の金利差に起因する歴史的な円安が進行し、資源・原材料価格の高騰が続いた。加えて、人手不足の深刻化やゼロゼロ融資返済の本格化など、市内企業を取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況が続いた。

こうした経済環境のもと、当所は地域総合経済団体として商工会議所の使命と役割の重さを強く認識し、積極的に各種事業の推進に取り組んだ。

商工会議所の重要な使命である意見・要望活動では、横浜市政・神奈川県政に関する要望をはじめ、税制改正に関する要望、道路整備に関する要望等を、政府、地元選出の国会議員、行政に提出した。また、「大阪・関西万博の成功なくして横浜の国際園芸博覧会の成功はない」との認識のもと、「2025年大阪・関西万博」の周知・PRと入場チケット販売に協力するとともに、横浜市や公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会と連携を図りながら「2027年国際園芸博覧会」の機運醸成に積極的に取り組むほか、会場建設費の寄附金募集に尽力した。

地域経済を支える中小・小規模事業者への総合的支援では、引き続き、新型コロナウイルス及びウクライナ情勢・原油価格上昇・物価高騰等に関する特別相談窓口を設け、これらの影響を受ける事業者の経営相談に応じたほか、小規模事業者持続化補助金や事業再構築補助金等の申請に伴う経営計画の策定や確認書の発行など、事業者と一体となった伴走型経営支援を行った。また、デジタル化相談窓口及びデジタル化支援セミナーの開催による中小企業のデジタル化支援に加え、SDGs経営専門相談窓口において、SDGs経営を目指す事業者をサポートしたほか、地域活性化に向けて、商店街振興及び農商工連携事業について検討し、次年度に商店街産直マルシェなどを実施することとした。

支部事業では、産業視察研修会や各種講演会・セミナーを実施したほか、支部合同交流会などを開催し、会員相互の交流を深めた。

部会活動では、部会毎に設定したテーマや課題に基づく各種講演会・セミナーを開催し、会場とオンライン配信のハイブリッドによる開催形式により、多くの聴講者を得た。さらに、これまで制限されていた交流会や視察会についても多くの部会において開催され、参加者同士の交流の場の提供に努めた。女性会では、女性経営者としての資質向上や情報交換、相互交流等を図ることを目的に、「女性塾」や「視察会」、「交流会」など数多くの事業を積極的に展開し、会員同士の交流、親睦を深める活動に努めた。青年部では、次世代リーダーの育成等を目的に、「会員交流プラザ」、「講演会」等、会員それぞれが自主性をもった事業運営を行い、相互交流、新たなネットワークの創出の場の提供に努めた。

市内中小企業の海外展開支援では、日本貿易振興機構横浜貿易情報センター等の関係機関の協力により、これから海外展開を目指す企業を対象に「はじめての海外展開セミナー」や「はじめてのEPAセミナー」、制度の見直しが進められている外国人の雇用について「外国人材活用セミナー」を開催したほか、市内企業の海外展開と経済状況を実感することを目的とし、4年振りとなる海外経済環境視察団をベトナム（ハノイ、ハイフォン）に派遣した。

組織基盤強化では、令和4年度からの3年間で15,000会員達成を目指す会員増強3か年計画の2年目にあたる本年度は、令和3年度・令和4年度に実施された新型コロナウイルス感染症関連の支援金を契機とした大幅な加入増がなくなったものの、議員紹介による加入が例年より伸びた結果、平成20年度末以来15年振りに年度末会員数が12,200件台を突破した。これにより、本年度の会員増強運動は、新規加入件数695件、退会件数593件で純増102件となり、3期連続で会員数増加となった。

こうした中、今回で12回目の開催となった「会員の集い」は、第1回目から継続する東日本大震災復興支援を目的に、震災時の瓦礫の中から見事に復活し、東北復興の象徴の一つとされる「復興ピアノ」を用いた演奏会、及びオペラ公演を開催し、900名もの参加者を得るとともに、1月には、恒例の「会員年頭祝賀会」を4年振りに制限を無くしたコロナ禍以前の交流会形式に戻して行うなど、1,000名を超える多くの参加者で祝った。また、士業会員による交流懇談会や支店長・営業所長等交流会、首都圏内商工会議所等広域連携による商談会、新会員交流会等に加え、少人数、双方向、体験型が特長のよこはまワークショップ型ビジネス交流会「ハマコミ！」を立ち上げるなど各種交流会を積極的に展開し、会

員企業のビジネスチャンスの創出・拡大に努めた。さらに、3月には当所のホームページをリニューアルし、WEB入会申込みやオンライン相談予約の導入、AI Chatbotを活用した経営支援情報の提供など新しい機能・サービスを盛り込んだ。

観光振興活動では、神奈川大学と連携して、市民や学生、市内企業を対象に横浜の観光コンテンツの魅力やその可能性を再認識することを目的とした産学連携セミナーを全3回実施し、観光振興が地域経済に与える効果について理解を深めた。

例年当所が事務局として主催するイベント関係では、感染症対策を講じた上で、5月に「第71回ザよこはまパレード（国際仮装行列）」を開催し、コロナ5類移行直前の開催にもかかわらず35万人の人出を得た。また、10月には「ワールドフェスタ・ヨコハマ2023」を開催し、前年を上回る延べ30万人の人出を記録するなど、コロナ禍で打撃を受けた当地の経済活性化や観光振興に貢献するとともに、「第42回横浜開港祭」や「横浜スパークリングトワイライト2023」等市内のイベントに協力した。

検定試験では、引き続きネット試験方式を浸透させるとともに、新たにメンタルヘルス・マネジメント検定試験（Ⅱ種）の直前対策講座を実施する等、受験機会の拡大と需要喚起を図った。

最後に、1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」において亡くなられた方々に深い哀悼の意を捧げるとともに、被災された皆様ならびに関連企業の皆様にお見舞いを申し上げ、一日も早く日常生活が回復し、経済が復旧しますことを心よりお祈り申し上げます。なお、この震災の発生を受け、被災地商工会議所及び被災地に対する災害義援金募金への協力を会員の皆様にお願ひし、267社から2,070万円もの募金を頂戴しました。ここに、改めて多大な支援を頂きました皆様に対し、厚くお礼を申し上げます。

令和5年度収支決算総括表

(単位：円)

会計名	前年度繰越金	収入額	支出額	収支残高	繰入金 △ 繰出金	差引収支残高
一般会計	149,875,777	1,217,390,112	1,201,409,251	165,856,638	36,889,089 △10,000,000	192,745,727
生命共済事業等 (特別会計)	51,759,236	110,279,634	84,894,872	77,143,998	10,000,000 △ 36,889,089	50,254,909
特定退職金共済事業 (特別会計)	98,486,696	1,479,411,960	1,468,921,012	108,977,644	0	108,977,644
合計 ¥	300,121,709	2,807,081,706	2,755,225,135	351,978,280	46,889,089 △46,889,089	351,978,280